

---

## とある異端の水分支配 《Poseidon》

Bright = C = M a k e r

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

とある異端の水支配《Poseidon》

### 【Nコード】

N1309BA

### 【作者名】

B r i g h t 〓 C 〓 M a k e r

### 【あらすじ】

学園都市。

一切のオカルトを否定したそこには、確固たる信念を持つ者達が集まる。

異能力全てを打ち消す能力を持つ少年、学園都市最強の能力者、裏表の激しい天真爛漫な少女、心配性な兄を鬱陶しいと感じる少女、都市伝説になりかけている女教師、記憶喪失のシスター、アロハにサングラスの悪友、吸血鬼を殺す能力を持つ少女e t c . . . 。そして、『Poseidon』とギリシャ神話の海の神の名を冠す

る能力を持つ少年。

一人のシスターを巡る事件から、少年は秘められた力を呼び覚ます！

（\*あらすじがアレですが、これは禁書の二次創作です。）

## Profile (自己紹介) (前書き)

美弾と同居人さんの紹介です。

## Profile (自己紹介)

みさかミハジキ  
御坂美弾

身長 175 cm

体重 57 kg

性別

レベル 0 5 6

年齢 15 歳

能力 ポセイドン  
水分支配

人物：

学園都市が誇る超能力者の一人、超電磁砲・御坂美琴の兄であり、学園都市最強の能力者・一方通行を幼馴染に持ち、全ての異能を打ち消す右手、幻想殺しを持つ上条当麻と同じ高校に通っている。週に何度も妹である美琴が心配なのか、しょっちゅうメールを送り続けているが、まともに返事が帰ってきたことがない。小学六年生から身体検査をしていなかったが、ある事件の前に測ってみた所、レベル5だと発覚。アフセラレータ

幼馴染である一方通行と同じ第一位となる。一方通行との馴れ初めは「ねえねえ、きみってつえーんだろ？どうしたら、そんなにつよくなれるの？」と聞いたのが始まり。

レベル6ソフト絶対能力進化計画の被検体になりかけたが、『ある騒動』で絶対能

力者にレベルアップした。

性格：

シスコン。

週に何度も妹である、美琴に連絡するのは欠かさない（妹がレベル5になったと知った時は、一番喜んだ）。

上条とともに、補習を受けるメンツに入っており、成績は芳しくない。

だが、想像を常にしている為（主に中二病的な）、美術の成績と体育の成績と家庭科の成績がずば抜けてよい。

少々、お調子者。

シリアスな場面でも茶化すことが多い。

絵が上手いため、青髪ピアスや土御門元春の希望を聞くことが多い。

口癖は『~~~~~なりに考えて』  
アクセラレータ

一方通行曰く『どうしようもないほど、優柔不断』。

ちゃらけた印象が強いが、決めたことは何があるうと曲げない、強い意思を持つ。

妹が上条に思いを寄せていることに関しては、応援している。

妹や友人を護る為、『情報屋』としてアルバイトをしており、学園都市の様々な暗部組織に情報を売る仕事をしている。

本人曰く、『反吐が出る』

生活：

学園都市の誇る『超能力者<sup>レベル5</sup>』である、超電磁砲の妹を持つがために、中学生時代は非常に苦労したとかしていないとか。

はじめて、身体検査をしたときは無能力者<sup>レベル0</sup>だった為、そんなに配給されたお金が少なかった為、まめに家計簿をつけることにしたとか。

容姿：

『デユラララ！』の折原臨也おじはらいざやに似た容姿をしており、髪の色は茶髪。目は海のように青い。  
イメージボイスは鈴村健一すずむらけんいち（沖田総悟／銀魂）  
お気に入りの服装はカエルをモチーフにしたパーカーにジーンズ。  
だが、ファーコート（夏季用もあり）とスラックスの確率が高い。

能力：

全ての液体、水分を支配する水分支配。ホセイドン

操る水の量により、作り上げるものが変わってくるため、想像力が求められる。

半径100mの水分を奪うことが出来る。

空気中の水分だけでも巨大な巨人を作り上げること可能。

ストーリーの鍵となる、能力。

他、様々な使い方が存在する。

\*主に美弾が心の声で叫ぶくらいです

技：

わたつみ ジャイアント  
海神の巨人

空気中の水分、コンビニで買ったミネラルウォーター（！？）で構成された巨大な巨人を作り出す。

ミハジキの集中が途切れるまで、形を維持できる。

わたつみ ブレード  
海神の剣

空気中の水分とコンビニで買った（?!）ミネラルウォーターで刃を作り出す。

その刃は同じ水をも切る事が出来る、ウォーターカッター 水利用切断機。

包丁ほどの大きさを鉄パイプをも切り裂くことができるほど、切れ味は鋭い。

わたつみ シールド  
海神の盾

空気中の水分とコンビニで買ったミネラルウォーター（！！）で盾を作り出す。

衝撃や打撃が一切効かない（水だし）。

想像力で耐久性が決まるため、大きければ大きいほど耐久度がある。

わたつみ ハルバード  
海神の戦斧

空気中の水分とミネラルウォーターで作りに出される。

使用方法は剣と同じ。

形状が違うほか、特に意味は無い。

アンヴィー（アヴィー・ペディア異能辞典）

身長 160cm

体重 45kg

性別 女

年齢 17歳（？）

魔法名 Avipedia - 564（貴方に知恵を与えます）

過去

元はステイルやインデックス、神裂と同僚だった。

しかし、後述の通り、ネセサリウス必要悪の教会上層部に記憶を消された為、そのことは一切覚えていない。

狼人間であるため、野良犬を拾おうとする（記憶のかけらの影響がもれない）。

性格

優しく世話焼きで明るく、社交的。かつて、必要悪ネセサリウスの教会に所属していたが、血で血を洗う『戦』が嫌になり、記憶を消され、脱走した経緯がある。

初対面の美弾ミハジキが人見知りであることをすぐに見抜いた。

インデックスと気が合うらしく、よく家（美弾の寮の部屋）に招く。美弾とともにいるとき、誰かが美弾に危害を加えると、能力を使用しようとする。

理由は『私が護つてあげないと。』・・・だそうです。

浮気には寛容（！）。

『どうせ、私が居なければ生きていけないんだろっけれどね』だったぞ。

ヤンデレ。

口癖は『〜〜けれど』

特記事項：アンヴィーは美弾が名づけた。

生活

『ある事件』に巻き込まれ、同僚と言えるインデックスと同じく脱走。

ファミレスでぐったりしていたところを美弾に見つけられ、『キジ肉ソーセージ』を与えられて復活（！？）。

料理が上手く、『ある事件』後、美弾と同居することになる（個人的にはかなりテンションが上がっている）。

容姿

赤髪赤眼のロングストレートでカチューシャをしている。

17歳（？）とは思えない、身体つき（スタイル抜群）だが、シスコン振りを発揮する美弾の眼中には未だいないとか。

モデルは『スタードライバー』のワタナベ・カナコ。  
服装は主にタンクトップにベストを羽織ってショートパンツが常。  
イメージボイスは井上満理奈（月海／セキレイ）

能力：異能辞典<sup>アウイ・ヘディア</sup>

見たことのある、『異能』の力を使用できる。

しかし、身体に思い負担をかけるため、あまり使われることはないモノもある。

主に、四肢から放たれる。

『頁』<sup>ページ</sup>で区切られる。

『必要悪の教会』上層部直々に主に『兵器』として使用できそうな『異能』の力を頭に『インプット』した（回復能力と終末狼以外）。  
下に述べるものは異能辞典の『司書モード』に使用されるもの。

10万冊以上もの本を記憶するインデックスが『図書館』であるのに対し、アンヴィーは『一冊の辞典』と言われる。

異能を記憶することができぬゆえ、魔術師に狙われている。

魔法名を持つが、術式を上手く練ることが出来ないため、魔力は『<sup>ページ</sup>』に使用される。

第一頁：<sup>いっぺーじ</sup>地獄火炎<sup>ヘルファイア</sup>・・・地獄の釜を煮る為に使われているという、  
すさまじいまでの業火。左手の手のひらから放つ。本物と同じく伝  
承どおり、業火で焼き尽くす。学園都市の<sup>バイロキネシス</sup>発火能力の比ではないと  
か。

第二頁：<sup>にぺーじ</sup>鎌鼬<sup>カマイタチ</sup>・・・右手両足から発動。風力を使用することにより、  
空中を移動したりすることが可能。

大鎌の形へと変化させることにより、右手で振り回すことも出来る。  
妖怪・カマイタチの持つチカラと同じもの。

第三頁：辞典・・・異能力を脳に記憶することが出来る。カズに限りなく異能の力を記憶することができるが、その分空腹になる（しかし、太らない）。  
美弾の財布が火の車となる原因を作っているともいえる。

第四頁：治癒能力・・・両手から発動。回復能力。癒しの波動で傷を一瞬で癒すことが可能。そのかわり、他の『頁』は使用不可能。自らの魔力を消費して使用される為、最も負担が大きい。  
アンヴィー自身が自分で身につけた能力でもある。

第五頁：終末狼・・・『頁』最強を誇るらしい。全身を使用。アンヴィーの本来の能力であり、本来の姿。『可愛くない』ことから、あまり使用することがない。  
全身に炎を纏い、体当たり又は噛み付いたりをするのが攻撃スタイル。

## S t a r t (ある日の事) (前書き)

この物語は「もしも、美琴に兄が居て、兄が一方通行と腐れ縁だったら?」のifのお話です。

「ご都合主義が含まれて居ると思われますので、「かかってこいや!」  
と思える人はどうぞ

## Start (ある日の事)

学園都市某所コンビニ

そこには、白髪赤眼の白い肌を持つ少年・アクセラレータ一方通行と茶髪蒼眼の少年が居た。

一方通行はそさくさと同じ銘柄の缶コーヒーを10本かごに入れ、会計を済ます。

「アクセラレータ一方通行、何故に置いていくし。俺なりに考えて」

すると、学園都市第一位の能力者・一方通行は呆れて溜息をついた。

「みはじき美弾、遅すぎんだよ、商品選ぶの。いくらなんでも、それはないだろ。」

一方通行は15歳にして未だにカエルをモチーフにした半袖のパーカーを着る少年に対し、言葉を続ける。

「フツー、ミネラルウォーター選ぶのに3時間もかけるか？」

一方通行は、呆れた顔をしてコンビニから出て行った。

## Fifth、sBrother（第五位の兄）

その後、美弾は一方通行に置き去りにされた。

「やっぱり、つれないなあ……。さーとと、美琴ちゃんに電話・  
って、する必要ないか」

電話帳から愛する妹の名前を探すが、その必要がなかった。

なぜなら、目の前でクラスメイトを追いかけていたからだ。

「待ちなさいよ！いい加減、諦めなさいってば！」

「嫌だ！そんなことしたら、上条さんが死んでしまいます！」

上条当麻。

イマジンプレイカ  
幻想殺しなる、ありとあらゆる異能力を打ち消し、神様の奇跡すら  
無効にしてしまう能力を右手に宿す、御坂美弾のクラスメイトだ。  
その力は無敵と言ってもいいのだが、何故か身体検査を受けても、  
無能力扱いされている。

「……いーなー。美琴ちゃんに追いかけてもらえるなんて。」

「あ、三八兄!？」

神は言っている。

チャンスはそこら中に転がっていると。

美弾の頭に電撃が走った。

それこそ、妹の美琴の能力のように。  
超電磁砲。レーザーガン

それが、御坂美琴の能力であり、彼女を学園都市で7人しかいない超能力者レベル5になっっている証でもある。

壮絶な努力があったことを美弾は知っているが、しかし美弾の能力は……。

……無能力レベル0だった。

「え！？御坂つて、美弾の妹!?!」

「そうよ！悪かったわね！……正直、メール毎日来るから鬱陶しいけど」

（あー、俺って何で妹に嫌われてんだろー）

美弾は肩を落としたまま、とぼとぼ歩く。

「……なあ、行かなくていいのか?」

「いつものことだから、大丈夫よん。……って、あー！待ちなさ  
いってば!」

上条はここぞ、とばかりに美弾のもとに走っていった。

「美弾ミハジキ、飯食いに行こうぜ!」

「……金ないよ。」

「しゃーねーなー。俺が奢る！」

テンションが下がりがまくりの美弾に対し、上条は仕方なさげに言う。

だが、これこそ上条当麻の不幸の原因となるのであった。

学園都市・ファミレス

「不幸だーーーーー！」

頭を抱え、上条当麻は叫ぶ。

巨大な『ストロベリー・グランデ・パフェ』15杯（一杯560円。税込み）。

先ほどの表情と打って変わり、美弾は幸せそうだった。

しかし、それでも。

「・・・あー、美琴ちゃんと食べたかったなー。野郎とでなく。俺なりに考えて」

と、途端に美弾は落ち込む。

上条はどうすれば良いのだ、と考えた挙句。

「そっいえば、アイツって前からあんな感じなのか？」

毎日、出くわすたびに10億ボルトの電撃を食らいそうになるからこそ、上条は気になる。

美琴は昔からああだったのか、と。

「あんな感じかな。たまーにだが、全く来ないメールの返信が来る 때가あって、そのときはいつもお前のことしか、書いてないね。」

兄貴として憎らしいねー、このこの！と言いながら、美弾はコップに入ったお冷から水をスプーンとなぞるようにして取り出す。

まるで、その光景はコップから水の蛇が出てくるかのように。

「なあ、美弾。お前、無能力レベル0なんじゃなかったっけ？」

上条はいぶかしむ様にして、美弾の方を見る。

美弾は見透かしたかのような表情で、水を喉へと流す。

「暫く、身体検査システムスキャンしてなかったからなあ。」

「そうなのか・・・」

上条は知っている。

御坂美弾が自分に劣等感を感じていることを。

美弾はどの教科も真面目に受けている。

しかも、テストは大体、平均点は取っている。

なのに、何故か能力に目覚めないことに焦っていた。

いつの日だったろう。

『どんなに災難が降りかかろうと、当麻の持つ幻想殺しが羨ましい  
と思うことがあるな。俺なりに考えて』  
イマジネブレイカ

少し苦笑気味に。

「そついえば、美弾。身体検査システムスキャン、何時だっけ？」

「明日だね。俺が予測するに」

「じゃあ、行こうぜ？たぶん、その水を掬い上げるやつ、能力だろ  
うし」

美弾は笑った。

上条も笑った。

しかし、笑えない事実が一つ。

「予算、オーバー」

・・・請求書が上条の財布の中身の上限を軽く超えていたのだった。

呆然とする上条。

そんな上条を他所に美弾は隣のテーブルでぐったりしている大人しそうなカチューシャをつけた妙にスタイルがいい少女を見つけた。

「……？起きてますかー？いや、寝てるな。俺なりに考えて」

うんうん、と頷きながら美弾は揺らす。

「……おい、やめとけよ。いやーな予感しかしないんだが……」

上条はデジャヴな気がする、と思った。

そして、少し過去に美琴を『助け』、その為出くわすたびに電撃を放たれるという、日々。

「んんー、あと340年……」

「いくらなんでも、長すぎだ！」

思わず、突っ込んでしまった。

すると、少女は目を擦りながら、

「……アレ、わたしなにしてたんだろ？」

と、目を覚ました。



## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n1309ba/>

---

とある異端の水分支配《Poseidon》

2012年1月6日19時51分発行